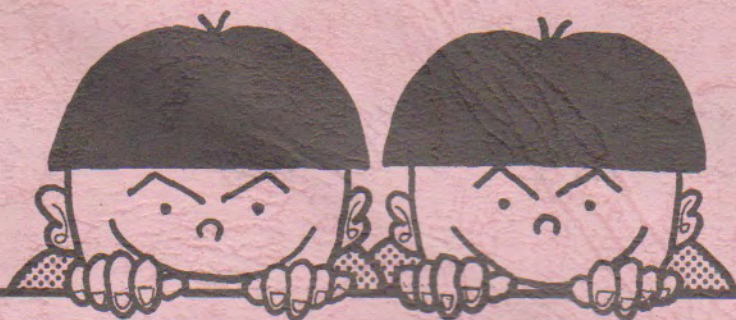


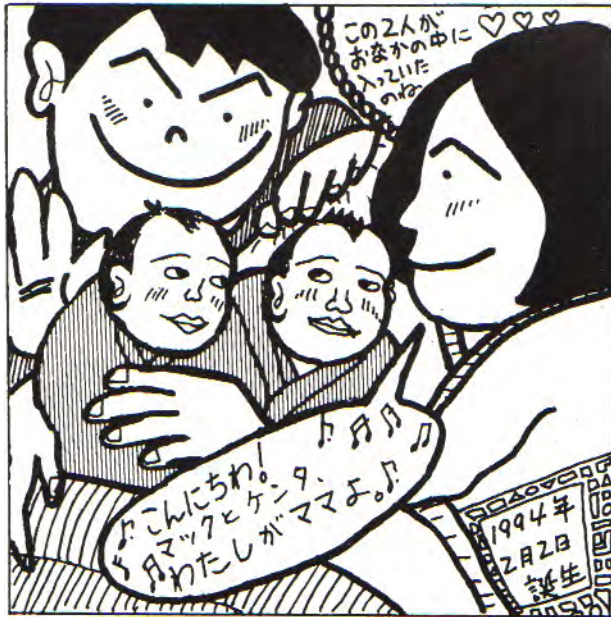


MAC と KENTA の 育児日記

作: 塩野悦子

社団法人日本助産婦会

MACとKENTAの育児日記



目次

『MACとKENTAの育児日記』から見えるもの(堀内成子)	2
まえがき－双子の魅力の宅配便－	3
MACとKENTAの育児日記(第1回～第19回)	4
その後のMACとKENTA	42

『MACとKENTAの育児日記』 から見えるもの

堀 内 成 子（聖路加看護大学）

「育児日記」——この言葉の響きは、喜びや楽しみであると同時に、苦悩と空しさの記録でもあります。育児中の家族はだれでもが悪戦苦闘の時間をもっています。

この双子の育児日記は、日本助産婦会の機関誌である『助産婦』に連載されたものです。出版委員長を務めていた私は、読者層を広げたいという願いと、塩野悦子さんを助産婦、双子の母親、父性の研究者として敬愛し、そして何よりも、ユニークな発想のマンが家として、この連載を依頼しました。

育児中の家族であるからこそ見えてくる独特の世界がここに繰り広げられており、今まさに育児奮闘中の家族が共感する抱腹絶倒のエピソードの数々が、ユーモアあふれるタッチでたくみに描かれています。

双子のみならず、多くの子育て中のお母さんと家族に、「こんなヘンテコリンな育児騒動でも、子どもは育つよ。渦中にあるときは苦しいけれど、振り返れば、楽しい歴史に必ずなるよ」というメッセージと共に、お守りとしてのMACとKENTAをお贈りします。



まえがき

—双子の魅力の宅配便—

塩 野 悦 子（宮城大学看護学部）

思いがけず双子を妊娠してびっくり仰天。宝くじに当たったような喜びをを味わいましたが、現実的将来の調整にはだいぶうろたえました。そして「戦争」という表現がぴったりの双子の育児。

緊張、心配、ストレスセーフ、思うようにいかない、気が気じゃない、平等vs 2人の個性……。こんな毎日で、無我夢中で取り組んできました。

しかし、そんな苦労をあっという間にかき消してくれる魔力を子どもたちがもっていることに気がつきました。双子育児では子どもたちのダブルパワーが救いで、楽しいこともいっぱいです。

堀内先生から「マンガを描いてみない？」と、この育児日記の依頼を受けたのは、私にとって非常に幸運なことでした。私の妊娠・育児の良き追体験の機会となったのです。当初は、数回のつもりで、私の体験をいかに端的に表現できるかに知恵を絞りました。しかし、しだいに表現する面白さのツボにはまり、5年間も続けさせていただき、この本の制作に至ったわけです。

マンガの内容は、マックとケンタという双子男子の妊娠判明から3歳ぐらいまでの育児の出来事を思うままに愛情をこめて描きました。さらに私の場合は、核家族である、仕事をもつ母であるという背景も特徴的かもしれません。双子育児の魅力をお届いたします。

連載中は多くの方々のご支援をいただき、今では私の大事な大事な宝となっています。この場を借りて感謝申し上げます。

育児マンガの効用として、①たいへんだった現実を愉快的な出来事へ転換できる、②育児中の親の不合理なおかしさを客観視できる、③自分の表現法で私しか知らない経験を他人に認めてもらえる、などを感じております。

普段からイタズラ描き専門のイラストレーターとしては超一流(?)ですが、まったくのど素人のマンガであります。お見苦しい点はどうぞご了承ください。



MAGとKENTAの育児日記



ハーイ！ 僕たち
ふたごのマックと
ケンタです。
よろしくね！

これは、双児育児の
必見の物語です。
まずは、妊娠編から
はじまり～
はじまり～!!

夫



出会い

妊娠7週で双児判明。予測もしていない事
態に、ただ愕然！ ちょっとき
ていたつわりも、吹っ飛んだ。→



夫と双児のいる暮らしを想像し、
面白そうな未来にウキウキした。

要するに、浮かれポンチ！ →



このときは、やがて来る厳しい
現実なんて考えてもいなかった。



強烈なつわり

妊娠の喜びもつかの間、私のからだにホル
モンに犯された。グワ〜ン、グワ〜ンと音を
立ててやってきて、私をノックダウン！

1か月の入院となる。

自分のベッド以外では、匂い
の怪獣やつわりマンが待ちかま
えていて、ほとんど寝ているし
かなかった。



【作者のプロフィール】

助産婦。1989年、聖路加看護大学大学院修了後、教職に数年。94年、双児出産にて退職。95年より愛育病院保健指導部（非常勤）へ。

作：塩野悦子



改造人間

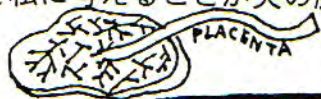
妊娠によって、今までの自分がいなくなった。運動・仕事・向上心を失い、体形もくずれた。時には涙して、「なぜ2人なの？」と怒りもした。

しかも、双児の育児は、まるで予測もつかず、不安だらけ。私はホルモンによって、改造人間にされたのだった。



夫のこと

つわりで弱り果てた私に、いつも料理の腕を振るった。栄養を私に与えることが夫の胎盤だったと思う。



妊娠中、ずっと私の腹部の写真を約70枚撮った。みるみる大きくなるおなかの変化を楽しんだ。

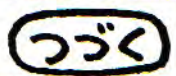


戌の日

腹帯と御守りを頂きに水天宮へ行った。日曜と大安と快晴が重なり、妊婦の行列という異様な風景に遭遇する。

この中に双児の妊婦はいないか、とても気になった。

食欲もわいてきたころなので、御参りより、タコ焼きに目が行く。うまかった。昼は回転寿司、夜は焼き肉だった。



MACとKENTAの育児日記



男と男

2人ともチンチンがあるので、どうやら男の子らしい。2人が動くとき地震がきたかのようにガクガク揺れる。

2人の個性はたぶん、第I子がおっとりマイペース、第II子はやんちゃで落ち着きに欠ける。

こんな事を思いながら母になるのかなあ。しかし実感はまだまだである。



最近は何でいること

双児を妊娠してから、めげることも多いが、これだけはつらぬいてがんばった。

中毒症には
ならな〜い!

とにかく塩ぬき。
慣れれば平気だが、
物足りなくて、
他のものが欲し
くなりやすかった。



妊娠線を出さな〜い!

お腹にクリームをぬりこんだ。
これは本当に効果あり!

スイカのようなお腹にはならない、ならないと念じながら、
せっせとぬった。



妊娠17週

妊娠22週

妊娠27週

妊娠32週

妊娠37週

かきこいのチア
のり

かきこいのチア
のり

かきこいのチア
のり

かきこいのチア
のり

●あらすじ

双児を妊娠して体験した、驚き、戸惑い、うれしさ、楽しみなど、感じたままにイラストでつづる。前回と今回は妊娠編。作者は助産婦。

作：塩野悦子

ふたごの快感



久々に美容院へ行く。双児だというのと皆の顔つきがガラリと変わる。双児がお腹にいることを知らせて驚かせるのは一種の快感だ。

しかし、電車の中ではむやみに伝えられない。こんなシールがあったらよかった。



大きくなるお腹 (左下参照)

寝返りのたびにうなるので、夫は不眠らしい。ちょっと動くだけで「フーフー」いう。



ほぼ同じ予定日の妹のお腹の出方とはまるでちがう。クリスマスの日にデパートの前でクレヨンしんちゃんと一緒に写真を撮った。



最後のあがき

今まで安静のため、牛  のようにゴロゴロしていたが、入院前日にそうじ、洗濯、育児環境づくりと、異常に動きまわる。夜には、もうこんな生活は終わりかと思うと、ドッと涙が出てきた。



次回は育児編。
お楽しみにー！

MACとKENTAの育児日記

第3回
育児編



マックとケンタがやってきた！

正にひとめぼれだった。
帝王切開だったが母子共に元
気。2人が部屋にくる前は、
まるでデートの待合せのよう
にドキドキしちゃう。どちら
を先に抱こうか、オロオロし
ちゃう。本当に幸せで最高の
気分だったが、騒ぎすぎて声が枯れたほど。

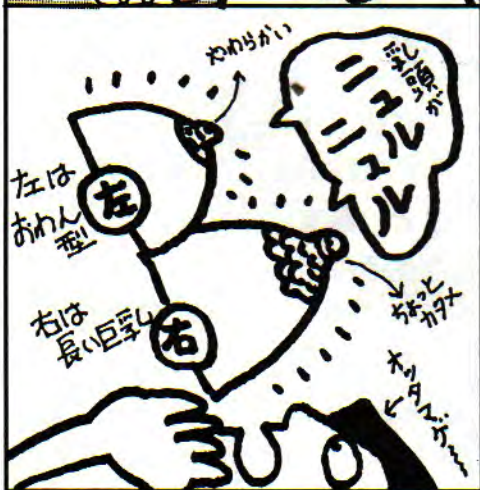


産後のハイ＆ロー

昼間は友人や家族の祝福で
超ハッピー状態。ところが
1人になる夜には、帰っ
からの手伝い探し、授乳の
心配、その他いろいろな疲
れが混ざって、涙ながらに
夫に電話したりする。正にこれは産後2日
目。3日目には吹っきた。

●わが家の事情●

妻の実家→仙台
夫の実家→甲府



母性神経

3日目より乳房が生きているかのようにまた
大きくなり驚く。乳頭や乳輪もニユルニユル
と音を立てているみたい。2人ののみっぷり
も日毎に力強くなってくる。ごはんなど、ゆ
っくりと食べ
るが、何か1
開通したたよ
それは「母性



られなくな
本の神経が
うだ。そう
神経」。

●あらすじ

妊娠中は戸惑いと不安が大きかったが、1994年2月2日、聖路加病院にて無事双児の男児を出産。それからめまぐるしい生活が始まった。

しおの えっこ

作: 塩野 悦子

助産婦。愛育病院保健指導部(非常勤)



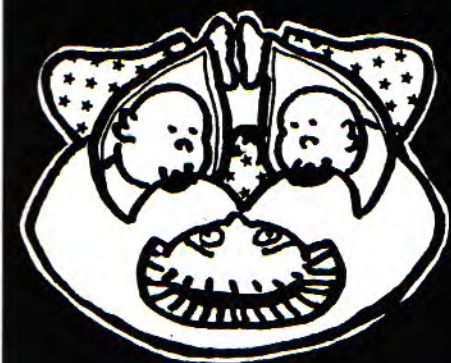
入院している時が花

母児同室はいい。ウンチ、吐いたはあるけれど、寝顔や笑顔は母になるエキスとなる。双児はそれが2倍だ!(ウヒヒのヒ)入院していれば、優しい助産婦さんがいるし、身体が回復してきたら、ちょっと銀座にも出かけた。今が花か…。



たくましき母への道

2人同時に泣けば、一緒に授乳した。お決まりの枕やタオルさえあれば、1人でもうまくできるようになる。それよりも2人の吸いたいという本能に助けられる。同時授乳すると分泌が良くなる感じ。このたくましい姿を見れば、誰もが一歩たじろいだ。2人が泣けば、そうせざるを得ないだけの事(?)。



帰りの渋滞

1時間で帰れるはずが、4時間かかってしまった。自然と2人はお腹がすいて泣きわめく。おまけに私は、コンタクトレンズをなくして大騒ぎ! 夫は渋滞でイライラ。しっちゃかめっちゃかで、ドン底に落ちそうな帰宅となる。



次回
家に帰っ
た後のこと



どうなっちゃうの?
僕たち……

つづく

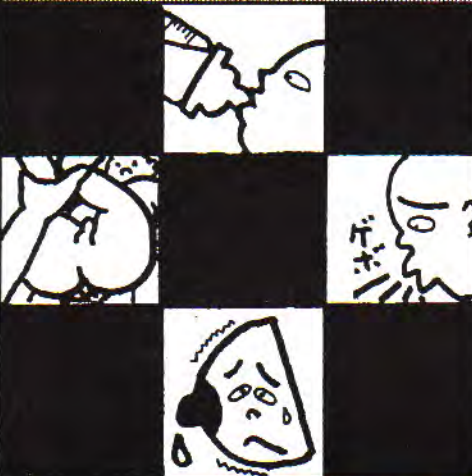
MACとKENTAの育児日記

第4回
育児編



目がまわる毎日

運よく夫が1カ月の休みがとれ、2人での育児がスタートした。しかし、毎日の日記の始まりは「夕べは最悪の夜だった」「夕べも悲惨な夜だった」「きょうもひっきりなしに起きていた」「朝はさすがにぐったりだった」と続く。家に帰ってきて、ひと息つけたのは1週間たってからだった。



1回の授乳タイムの内訳

おっぱい⇒まだ寝ない⇒もう1人がウンチブ〜!⇒ゲップ出ない⇒吐いた!⇒まだ寝ない⇒おっぱい足りない⇒ミルクのむ⇒お口パクパク⇒ミルクつくる⇒ちょっと熱かったみたい⇒泣く⇒ミルクのむ⇒もう1人が泣く⇒おっぱい⇒ゲップ⇒シャクリ⇒もう1人がウンチブ〜!⇒ミルク吐く⇒お着替え⇒2人寝る⇒寝ながらうなる⇒心配だ⇒でも寝よう…と思ったらまた……のくりかえし。



気が気じゃない症候群

同時授乳していても均等にのめるかハラハラ。1人だけにあげていても、もう1人がどうしてもソワソワ。授乳には集中できない。ごはんもじっくり食べられない。常に腰が落ち着かなくて気が気じゃない。そんな症候群におちいった。



●あらずじ

妊娠中は戸惑いと不安が大きかったが、1994年2月2日、聖路加病院にて無事双児の男児を出産。それからめまぐるしい生活が始まった。

作:塩野悦子

助産婦。愛育病院保健指導部(非常勤)

寝顔で充電

2人がおでこをつけて寝ていたりしたら、もう疲れなんか吹っ飛んでしまう! 手がかかるけど、それ以上のパワーをくれる2人。受精卵の時からのことを想像してみると、とっても不思議だ! 私たちのことを見つけてホッとしたような目をされるとたまらなくなる!



夫のこと

夫は育児なんかしたことないのに実に落着いてやっている。帰宅した日泣いてる2人を見事に寝かしつけたのにはびっくり。男性とはいえ、親になる本能というものを感じさせる。寝る時の明るさや乳首の穴の研究、手足のあたたかさの点検など、全くおそれいる。



2人の顔は百面相!



♡退院して1カ月は、義姉や学生にヘルプしていただきながら、何とかM&Kを育てました。1カ月ぐらいたって初めて夫と「疲れたー!」と本音を吐き、ずーっと緊張の日々でした。

次回は実家の仙台で過ごした日々のご様子。



MACとKENTAの育児日記

第5回
育児編



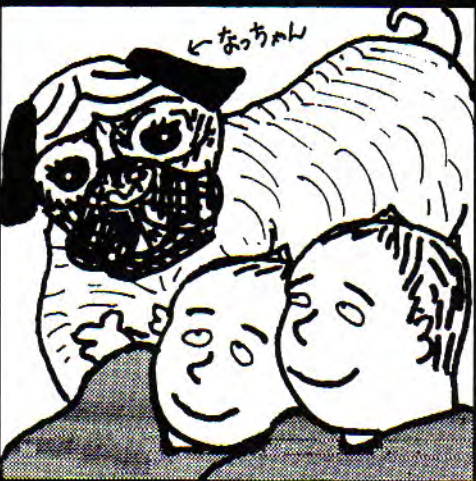
夜はバトル

生後2～3ヶ月は実家で過ごす。寝る前の泣きは激しくなるばかり。グズリをあやして目の前の夕飯を2時間おあずけのこともあった。特に夜10時から午前2～3時は正にバトルで、私と私の母は鬼のようになって2人の泣きと戦った。あらゆることは試したが、①ミルクをたっぷり飲ませ、②揺らして揺らして揺らしぬく、後は③根性あるのみだ。



休む暇なし

私の母は働いているので、たいてい昼間は私1人でみた。2人の世話の合い間にコーヒーを入れても、結局飲もうとする頃にはコーヒーの粉がいつも乾燥していた! 双児をもつ友人に「2～3回はもう死ぬかと思うことがあるよ」といわれていてそのとおり。夕方、床にバタンと横になったら動けなくなったのだ。



犬の手も借りたい

実家のなつ子というパグ犬は、子供には慣れていて、毎日2人の匂いをひととおりに、納得すると2人のそばにゴロンと寝る。M&Kはあやすとだんだん反応も出てくるようになり、2人一度にあやせないとせつなくてせつなくて悲しくなる。犬の手も借りたいほどだった。

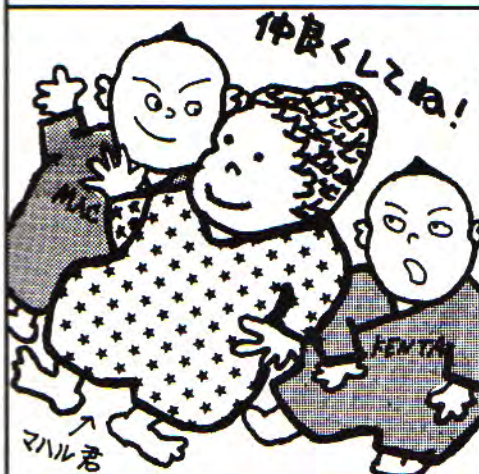


●あらすじ

妊娠中は戸惑いと不安が大きかったが、1994年2月2日、聖路加病院にて無事双児の男児を出産。それからめまぐるしい生活が始まった。

作:塩野悦子

助産婦。愛育病院保健指導部（非常勤）



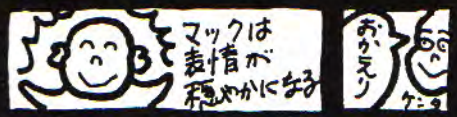
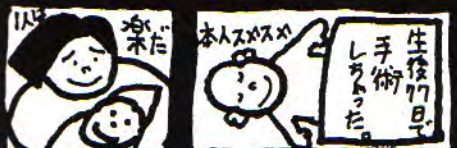
いとこのマサル君

妹の子供の真晴君が来た。同じ月齢だが背が高く、手足もビッグの怪物くん。我が子たちがマルコメみそに見えておかしい。声も大きく、真晴君が泣くと2人はたまげて見ている。M&Kは妹のおっぱいをもらって飲んだこともある。3人のめんどろみと、双児が楽に感じた。



マックの入院

夜にマックの睾丸の上が腫れていてビックリ！ 何とソケイヘルニアだった。運良く、近日に手術となる。ケンタは母と妹にあずけて入院（2泊3日）。緊張したが、初めて1人の子の親となり、じっくり抱けた。かえて私には安らぎタイムとなったようだ。



ふたごの困り度指数（★で表示）



2人同時に泣く
(空腹で)

★

あきりめがつく。
覚悟ができる
のを、とうにか
なる感じ。



同時授乳

★★

セッティング
次第である。
ギャップを十分に
同時にほ
てきない。



後から1人が泣く

★★★★

泣いてはる方を
あやせないのど
とも困る。
片足を揺らし
たりするが……



2人の甘い泣き

★★★★★

平等にあやせ
ないのを非常
に心が痛む。

♡仙台での生活は、夜の辛さはあったが、母や妹には本当に助けてもらった。2人共飲みっぷりは見事で、ムチムチの子豚ちゃんになり、迎えにきた夫がびっくりしていた。



MAGとKENTAの育児日記

第6回
育児編



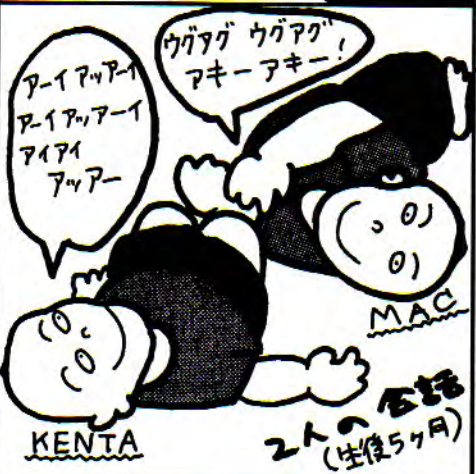
ふたごの快感

夫はベビーカーを押したくて、休みはいつもお出かけ。するといろんな反応があっておもしろい。寄ってきて「かわいい!」なんていうのはオバさん。たいていの人は通り過ぎてから、「ふたごよ」なんて言っている。いずれにせよ、それが楽しみで散歩はいい気分だ。



ライオンの母となる

初めて母親と実感したのは、1匹の蚊がとんできた時だ。思わず2人を抱き寄せ、敵から守るという行動をとっていたことに、我ながらびっくりした。野生のライオンにでもなったみたい。母親って本当にスゴいなあ。安いオムツの広告があれば、すっ飛んで買いに行っているんだもの。



2人の個性

マックはミルクの飲みっぷりが良く、いつもふんぞり返ってすわるので社長と呼んでいる。少し小柄なケンタはすばしっこく、要領がいい。マックが練習を重ねてやっと寝返りできたのに、ケンタはあっというまにマスターしてしまった。日光浴などしている2人が声を出して喜んでいると、この上ない幸福を感じるものだ。

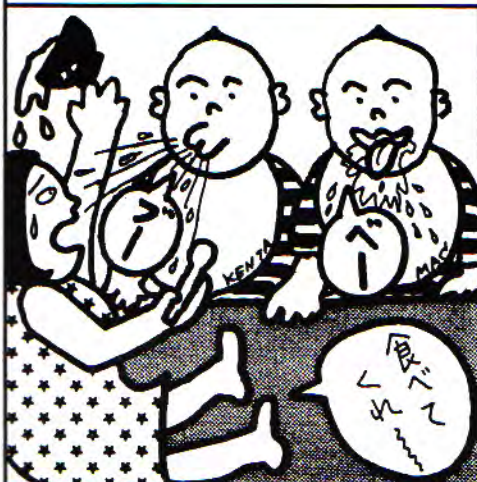


●あらすじ

双児男児との育児バトルが始まった。退院後1か月は夫と共に、その後1か月は実家での日々。今回は再び自宅での本格的育児のスタートだ。作者は助産婦。

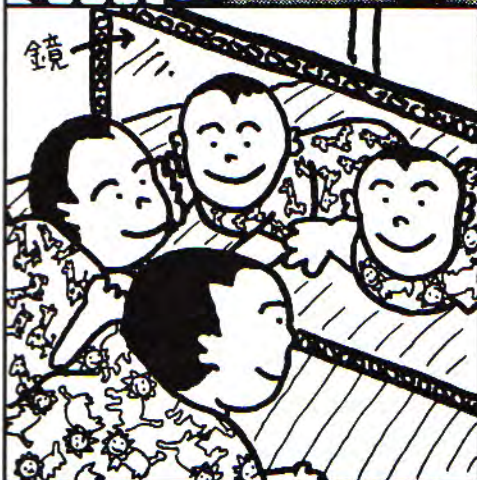
しおのえっこ

作: 塩野悦子



育児はすべてが心配

離乳食が始まり、母親苦戦！ せっかく作ってもベーベー、ブーブーされ、増えるは洗い物ばかり。2人なので、どちらかが笑いが少なかったり、オシリが赤くなったり、イビキかいたり、変なふうに手をついたり、育児ってちょっとしたことすべてが頭を悩ませる。



4つご？

2人にグズられると大変なので、その前にしつこいほど2人と遊んでやると、効果は大きい。ふとんの上で高い高いをして思いっきり笑いころげさせたり、彼らの喃語を負けじとオウム返ししてやる。体力を使わなくていいのは鏡を見せること。4つごになるので、こちらも楽しくなっちゃう。



精神衛生の向上

どうしても1日のうつぶんが、疲れて帰る夫へぶつけられるので、またエアロビクスを始めることにした。ベビーシッターを何人か試した。年輩の人は経験豊富で良いけれど、少々しゃべりすぎ(?)。私は若いピチピチギャルのほうが相性があう。2人は人見知りが激しいが、帰ってくると、とても生き生きしているのがうれしかった。



MAGとKENTAの育児日記

第7回
育児編



母の馬鹿力

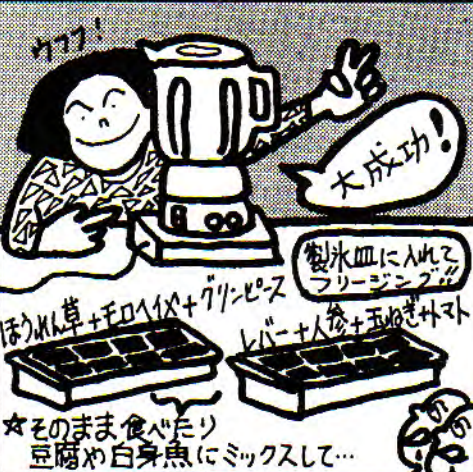
機嫌が悪いと思ったら、ケンタが38.5度。初めての発熱にアワアワしながらも、気がついたら小児科へと向かっていた。我ながらとっさの馬鹿力に驚く! 2~3日後に発疹。生後4カ月にして突発性発疹にかかる。汗だくの母。

80YAKI
小児科がエベターなしの2階にあるのは勘弁してほしい!



胎児期の記憶

寝返りなどマスターして世界が変わると、表情もガラリと豊かになる。妊娠中に口ずさんでいた歌を歌うと、2人は確実に反応した。やっぱり聞こえていたのかしら。もっと高尚な音楽でも聞かせればよかったなあ。私っておふろの中でも音程がはずれてしまうのだ。



ミキサーパワー

生後6カ月のある日は東京39.1度の超猛暑。いつものようにまとめて離乳食を作っていると、ミキサーを求めて電気屋へダッシュ! これは便利……! ウハウハとままごとのような実験のような料理に精を出す。育児って自己満足の世界に入り込む。



双児男児との育児バトル。離乳食・発熱などと苦戦しながら2人はどんどん成長していく。息をつく暇のないヘトヘトの母だが、2人の発するパワーは強い。作者は助産婦。

しおの えつこ
作: 塩野 悦子



シンクロナイズド・ツインズ

見事に2人は
同じ動きをす
る。これは一
種のエンター
テイメントで
あり、明らか



に私たちを魅きつける。すると平等意識を強め、つい同じようにしたくなる。1人が服を汚しても、2人共取りかえてしまう「私」。

私は看護婦さん

8月(生後7カ月)に夫が肺炎でダウンする。2人は夏カゼが治ったばかりで超元気。さかりのついたネコみたいにじゃれている。私は3人の世話と山積みの洗濯にあけくれる。しかし私と息子共は、毎日お父さんがいるので内心うれしい。夫が良くなると今度はマックが発熱。私って看護婦さんになったみたい!?



ライフライン

ストレスの毎日が続くとやはり家族の支援は実にうれしい。何かあるとすぐに泊まりにきてくれるのは夫の母や義姉。妊娠中から甘えっぱなしだ。ありがたい。妹や母との電話は日常茶飯事。窓から外を歩いている犬を見るとうらやましくなる程、私の生活は家の中ばかり。いつになったら、あんなふうに歩けるんだろうか……。



M&Kの観日記

第8回
育児編

2人のスローな戯れ

おい、何するんだよ〜



ギュー~~~~

えーい、お返したあ!



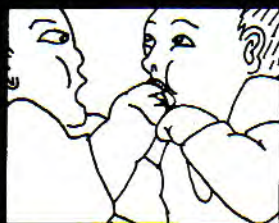
いたいよおー

ねえ、これ、
どんな味?(ガッ)



ウッ!...

あ〜ん



あれ、
この中には
指がはいるぞ!



背中へのピリピリ虫

悲鳴があがるほど、背中がピリピリと痛む。肩こりもひどく血がめぐってないのがよくわかる。背中や肩に虫→でもいるみたい。あまりの激痛に整形外科にも行ったが、効果なし。2人の重圧がぐっとのしかかっている。でもきょうもまた2人で抱っこ、抱っこ〜!とせがむ。



海へピクニック

いつもは(サーフィンの)板を抱えていく夫だが、きょうは息子たちとミルクだ。大きくなったら、一緒に波乗りすることが、さぞ楽しみだろう。しかし、M&Kは海に近づくと、ビエ〜ンとこわがって大泣き! 自分の血が流れているのを信じて耐えるのみの夫だった。



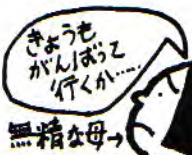
●あらすじ

ふたごの男児に悪戦苦闘しているようで、実は2人にパワーをもらう毎日。まわりの援助も大きな支え。とにかく休む暇ないストレスの育児がつづく。
 作者は宮城大学看護学部講師。

作:塩野悦子

公園でのこと

妊娠中から、あの集団だけにははまるまいと固く決心していたのに、生後7ヶ月頃、とうとう行ってしまった。2人を外に連れ出すのは実に大変な作業だ。でも、あやかちゃんという同じ月齢の友だちをみつけてから、それをえさのごとく、さっと出かけられるようになる。M&Kは人見知りが強く、最初はブーッとしている。



おすわりは楽し

2人がおすわりしてテレビを見ていると、あ一家族の一員になったのだなあという実感が強くなる。そして2人はますますゲラになり、楽しそう。「アワワワ〜」とインディアンみたいに言うのが気にいって、母の方がおもりをしてもらっているみたいだ。



飛んだ小指

ある夜、皆が寝静まってから人参のみじん切りを始めた。日頃からよくできているベビーフードに感心していて、それに挑戦しよう!と思ったのだ。「ギョエ〜!」ある瞬間、何が起ったのかわからなかったが、血が出る小指を押さえながら、落ちた小指の先を拾ってポケットに入れた。寝ている夫を呼び、病院へ急いだ。



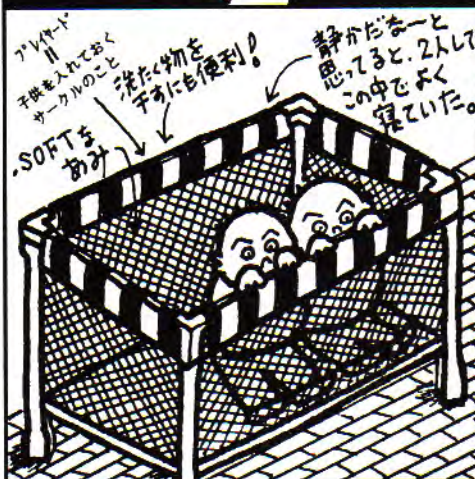
MACとKENTAの育児日記

第9回



「飛んだ小指」の続き

小指を切ってオムツも取り替えられなくなり、青ざめたが、全治2週間の間、夫の母が手伝いにきてくれて、なんだかちょっと楽になった気分! 公園にも買物にもスイスイ出かけられ、いつもは鉄下駄でも履いていたかのように軽くなる。指が治って徐々に風呂に入れたら、2人共一回り大きくなっていた。



プレイヤードにサンキュー!

2人はあっという間にいろんな所へ動けるようになり、8ヶ月頃プレイヤードを購入。これには本当に助けてもらった!

お風呂
タイム
好きなビデオを
つけ、1人づつ
入れる。

親のごはん
タイム
ゆっくり
食べられる

おもちゃを
入れておけば
play room!

2人のフロッピー
観戦つき!

漫才もやってくれる。

お天気悪いと救われる

散歩には勢いがいる。エレベーター無しの2階なので、1人ずつベビーカーまでの移動。2人の身支度そして乱れきった自分の身支度だけでも大変! しかも散歩に行く分、洗いや洗濯物がたまる。体力も使うのでバテバテ。太陽がサンサンの日には家にこもっていると罪悪感のかたまりとなってしまう。



●あらすじ

2人はお互いに興味を持ったり、母を笑わしてくれたり、公園に行ったり、ふたご男児とスリル満点の育児がつづく。ある夜、人参のみじん切りをしていたら……!?

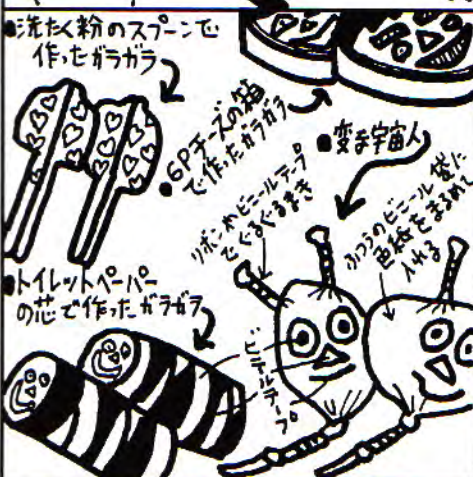
作: 塩野悦子

(宮城大学看護学部講師)



こんな時は気が狂う

- 2人のペースがずれようものなら、1日お先真っ暗! 思いどおりにならぬ育児。
- 時間と手間をかけて作ったごはんほど2人は全く食べない! ベビーフードはパクパクなのにWWM!
- 私は2人の世話で箱の中。夫は箱の外でお仕事。衝突は避けられない。ケンカのための育児への切替えて超むずかしい!



夜中にしていること

2人が9時頃寝てしまうようになると、申し訳ないようにホットする。そして私の創作意欲が湧いてくる。実は育児雑誌の手作り云々にあおられているのだが、安上がりが魅力的。何でも2つ作るの職人のような気持ちにもなる。夜中にトイレで起きる夫に「またやってるの?」とからかわれ、「イヒヒ」と答える。



双子パレードに参加

東京ディズニーランドの不思議の国のアリスのイベントに当たる! Dee & Dumという双子のキャラクターに仮装し、老若男女約200組の双子がパレードした。M & Kは11カ月で最年少。何事かよくわからないまま、大きなぬいぐるみが寄ってきて大泣き! 翌日、ケンタは40.8度、親は筋肉痛。楽しかったから、まっいっか——!



MACとKENTAの育児日記

第10回



無駄な抵抗

久々にお腹をつまむと、正に皮と脂肪！ビロvvvvンと伸びる。ショック！「この子たちが入っていたんだから、しょうがないか——」
 とは言いつつもとっても気になり、流行りのクリームに手を出し、夫に白い目でみられる。効果うすくても、ぬっているだけで気が落ち着くのだが……(?)



ティッシュの海

2人共、つかまり立ちから、立っちも上手になってきて、こちらもパワフルにしてないと負けそう。おつむの方もどんどん知的になってきている。イタズラも彼らの日課になりつつある。ギャーギャーいってる時より、静かな方が無気味。見つかると「しまった」という顔が愉快。



ひつつき虫

年末に実家に帰る日にマック38.5℃。休日診療所に寄って仙台へ。よく来たわねーと母に言われ、翌日小児科へ。その夜ケンタも発熱。また小児科へ。私ものどガラで耳鼻科へ。いとこ達が遊びに来るが、2人は具合も悪く、人見知りも強く、母にひつつき虫&追っかけ虫でビービー泣いてばかり。悲惨きわまらない年末となる。



●あらすじ

散歩は大事とわかっていながらもやっぱり大変。2人の睡眠ベースがずれば、その日の母の休みはなし！でも夜中に自分の時間を持つようになったり？ 毎日毎日どうにか過ぎ行く双子育児の奮戦絵巻。

作: 塩野悦子

(宮城大学看護学部講師)

最初は紙パップの
ジュースで、ストローの
特訓したん
だぜ！



何となく1歳

交替に熱出たあ、水ぼうそうだあと、看病に明け暮れていると、あっという間に1カ月は過ぎていく。そろそろ1歳だからストローでも練習しようとしてマグカップを買ってくると、もう8カ月位から、始めるらしかった。そういえば、離乳食もやめてよかったのよねー。レトルトカレーもよく食べてくれて感激。楽。



ふうあがりの
ジュースをつくって
いざ、お風呂へ
突入！



12
34



一件落着



一人沈没

お風呂で

あーる日突然、プレイヤードに残してきた方が泣きわめき、2人一緒にお風呂に入れざるをえなくなる。「せーのー！」で抱きあげ、ざぶーんとする。初めての時は緊張して死にもの狂い。でもちょっとうれし。2人を入れると、自分の体は洗えませ〜ん。



ハイ、
ストップ
OK-

私も働きたい！

復職の決意

ある日、ガソリンスタンドで生き生きと働いているお姉さんを見て、とてもうらやましくなった。ラジオではシーナ&ロケットの人が双子ができたからこそ働こうと思ったと語っていた。だから『よし、また働こう』と決めた。動機はこんな単純なことだが、決めてからは、何かまたウキウキしてきた。



MACとKENTAの育児日記

第11回



保育園さがし

運よく週2～3回でA病院の育児指導のお仕事が見つかった。早速、保育園捜しに奔走するが、公立なんて全く入れない。ましてや2人一緒なんて皆無だ。「1人だけでもいいですか?」なんて聞かれるとパンチしたくなる。必死の思いで書類を出したら、とんでもない答え(図3)が返ってきて啞然。世の中どうなっているの?



コミュニケーションの変化

子供のいる生活になってから、コミュニケーションの変化にふと気がついた。ふつうは相手に向かって話すのに、いつのまにか子供に語りかけたりしている! 本人は独り言のつもりなので悪気はないが、ボヤキやグチが多いので、相手の心をグサッとえぐることもある。子供経過の話はやめよう!



慣らし保育パニック

結局、駅近くの民間保育園にお世話になることにした。慣らし保育の最初はすさまじい2人のからみ合いパニック!となる。ふつうは母親を追いかけるのだろうが、2人で支えあっているところが双子なのか…。とりあえず2人が緊張している姿はつらい。親も大緊張!!



順番に発熱、水ぼうそう…と、気がつけば2人は1歳。知恵がつき、よく食べ、よく寝るが、人見知りだけはいまだ強し。母が少しずつ自分を取り戻そうと、お腹を引っ込めたり、復職を考えたり…。双子育児の奮戦絵巻。

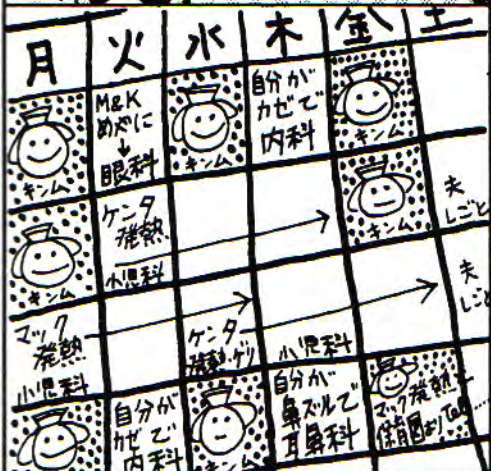
作: 塩野悦子

(宮城大学看護学部講師)



母親ダウン

寒けとだるさで、私がグターっと横になっているけど、2人は勝手にやっている。マックは自分の足を見ているだけで笑い、ケンタは逆さまの絵本を真剣に見ている。夫は料理を作っている。私がやらなくても、みんな適当にやれるんだ！たまにはダウンもいいみたい。神様がくれた休息だ。



病院通い

久々に白衣を着て、キャップをかぶって働く。ちょっと1時間前は髪ふり乱していたのに、全くの別人に変身だ。ところが集団生活に入った途端に、親子共々カゼにやられていき、休みの日はほとんど病院通い。マックが熱を出せば、次はケンタ。ダブルで休むので、なかなか思うようには働けず。



TVドラマ依存

夜の楽しみはTVドラマ。夜9時に間に合うように寝かしつけるのが生きがいとなる。マックはおんぶ、ケンタを抱っこでゆらゆらと、「ぞうさん」でも歌えばボタンQ！といけば占めたもの。この寝かしつけにほればししながら、ドラマへほればしとのめり込む。現実からふっと別の世界へ飛んでいく。



MACとKENTAの育児日記

第12回

早のみMAC! アドベンチャー KENTA



食う食うMAC! なまきず KENTA!



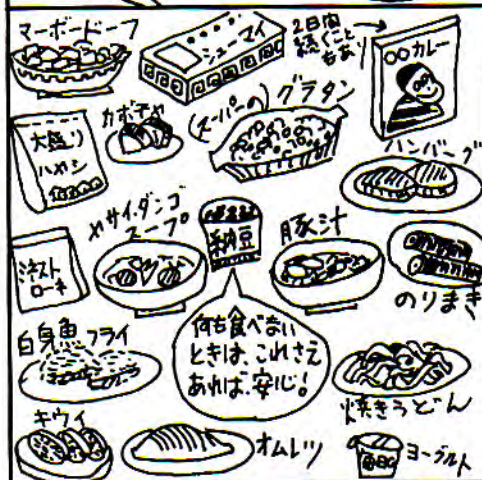
2人にはハラハラ

マックは新生児の頃から早飲みで、飲み終わると、ゆっくり飲むケンタを襲う。熱が出ようとムクッと起きてパクパク食べる。この間はレシートも食べた。ケンタは1人で暗い寝室へ行くのが好き。生傷が絶えず、1日数回はどこかをぶつけている。この間は知らないうちに手のひらにヤケドを発見。驚いた。



朝の段取り

朝の2人分の着替えがおっくうで、夜寝る前にすでに明日の服を着せて寝かせた。出かける時、なかなか集まってくれないので、アイスやお菓子でつって集合させる。いわゆる育児の掟のようなものはことごとく無視して朝の支度をやっています。



夕の段取り

病院の勤務が9時~16時半で、帰りの駅到着が17時半。駅前のスーパーで買物し、家に一旦帰って車でお迎え。夕飯のメニューはVery Special One Pattern! 唯一の母の味は具沢山の味噌汁だ。余裕のない時は「ごめん」と心で言いながら、電子レンジで「チーン!」の料理。納豆だけは欠かしません。



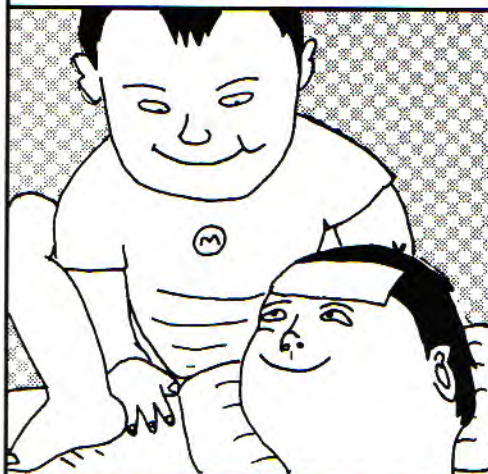
●あらすじ

双子は保育園へ、母は病院の育児指導のパート勤務に出た。一家で大緊張の新しい生活が始まった。その途端に2人は順に熱を出し、母もダウンし、なかなか思うようにはまだ動けない。双子育児の奮戦絵巻。

作:塩野悦子

(宮城大学看護学部講師)

E-mail: siono@mail.sp.myu.ac.jp



2人の仲

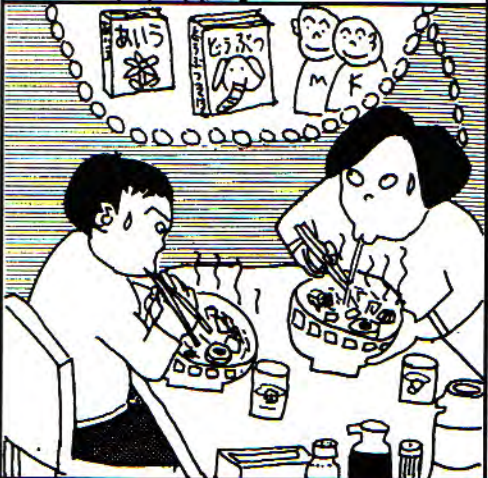
ある日ケンタが熱を出して横になっていると、マックが母のように、枕元で看まもっていた。まだ1歳3、4ヶ月の赤ん坊なのに何と微笑ましい光景だ。ケンタの甘える表情も母には見せたことのないほど。

保育園でも1人が泣くと、もう1人が「いい子いい子」しにいくそう。ダメ母の分、2人の絆は強い。



父へのリアクション

父さんが動くだけで、2人は「あーあ」とリアクションする。朝起きると喜び、帰ってくると喜び、父さんは普段いないだけに本当に人気者だ。父さんが食べるものを欲しがるので、もやしやもずくは好物になった。保育園のお迎えに父を見つけると大喜びで母は用無し。ホッとするやら、がっくりするやら……。



久々のデートだけど……

夫と平日に休みが取れ、一緒に映画「フォレストガンプ」を見に行った。子どもが生まれてから、家の中のつきあいだけだったので、久々のデートになる。外を2人で歩くこと自体めったにないのでちょっと新鮮!? 大好きな桂花ラーメンに寄ったが、頭の中はマックとケンタのおみやげを何にしようかということばかり。あーせわしなや!



MACとKENTAの育児日記

第13回



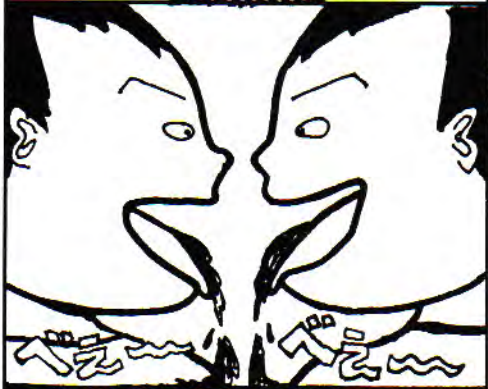
絵本えらび

前に1つしかないオモチャのうばいあいのすさまじさに辟易したことがあるので、オモチャは同じものを2つ買うようになった。しかし絵本を2冊買うのには抵抗があり、絵本選びには苦勞する。1冊いいのを見つけると、それに匹敵するほどいいのを見つけるまでに時間がかかる。悩みすぎで結局1冊も買わないでしまうことがある。



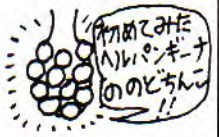
2人はこわがり

1歳半になっても依然と人見知りが続く。楽しい時も2人で盛り上がるが、こわい時も2人で余計に盛り上がる。大人だけじゃなく、いところが寄って触ってくるだけでも火がつく。時間がたてば慣れるのだが、かなりしぶとい。手におえない。2人の世界が強いのか、私の育て方がだめなのか…。



まねっこ双子

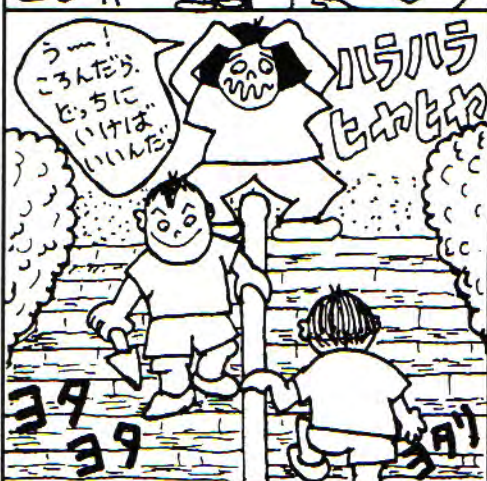
交替に風疹・ヘルパンギーナ・ロタウイルスと見事にかかり、仕事が今まで週3回だったのが、7月には月3回となった。2人のまねっこは病気だけではなく、口の中のものをベエーっと出せば、もう1人もベエー。1人がグズって母に抱っこされるともう1人も抱っこを要求し、ピーピーパニック。じっくり抱けないのが一番辛い。



あまりにも楽しそうなので、つい怒れなくなってしまう母なのでした。

2人を保育園に預け、仕事をするということは、正に時間との闘い。手抜きも必要。2人の個性が出てきたり、2人の絆が強くなるのを見るのは、せわしない毎日の栄養剤。毎日スリル満点の日々が続く、双子育児の奮戦録。

E-mail : siono@mail.sp.myu.ac.jp



いも標こころ
女科九かた

働くようになってから、軽そうな普通のベビーカーで電車に乗っている親子が目につくようになった。うらやましいと思いつつ、うちはまだ先のことと思うだけ。

公園に2人乗りベビーカーで出かけ、2人のバラバラの行動に翻弄されて、それで精一杯だ。母が1人で公園に連れて行った時の写真は1枚もない。



MACとKENTAの育児日記

第14回



寝ぞう

2人の寝ぞうはすさまじい！ あごとあごをフックしていたり、四の字がためあり、親ガメの上に子ガメあり。2人の寄り添うかっこうを見ていると、胎内にいた時のなごりをふとよぎらせる。起きていてもくっついていてるけど、寝ると無意識に過去の原形にもどるのかな……(?)



ハイホー狂い

1冊しかない白雪姫の絵本を必ず奪い合いするので、小人の人形を買った。7人もいるのでケンカもせず、大成功！ それから毎晩白雪姫のビデオざんまい。2人でハイホーの歌に合わせて行進する。おばあが出るシーンになると急いで2人して母の膝へ飛んでくる。このくらいの子をもつ親はたいてい7人の名前を知っている。



初めての電車

初めての外出が1歳半。初めての電車が1歳7か月。お天気・2人が元気・夫がいる・親の心の余裕…などいろんな条件が整ってやっと実現。普段どうしても車やベビーカーに頼るので、まわりの子に比べて鍛えられてないかも。見事に「行きはよいよい帰りはこわい」となり、親の喜びもつかの間と散る。



●あらすじ

2人を公園に連れていってもハラハラするばかりで、なかなか楽しめない。1歳半になり、2人は互いにまねしあって楽しんでいるが、病気までもまねっこ。母は思うようには働けない。スリル満点の双子育児の奮戦絵巻。

作:塩野悦子

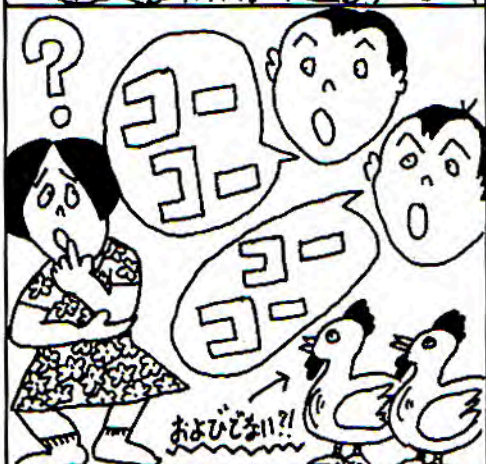
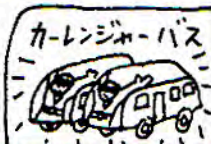
(宮城大学看護学部講師)

E-mail: siono@mail.sp.myu.ac.jp



幼児雑誌付録地獄

幼児雑誌には必ず付録がついてくる。雑誌の指示通りに切ったり、折ってはめ込んだり、結構手間がかかる。作っている端から、2人の手がのび、ギャスカしながらできあがる。BUT、ものの何分もせず無残な姿のあっけなさ。それからというもの、雑誌は2冊買い、子供が寝てから、同じ付録を夜な夜な2つ作るのです。



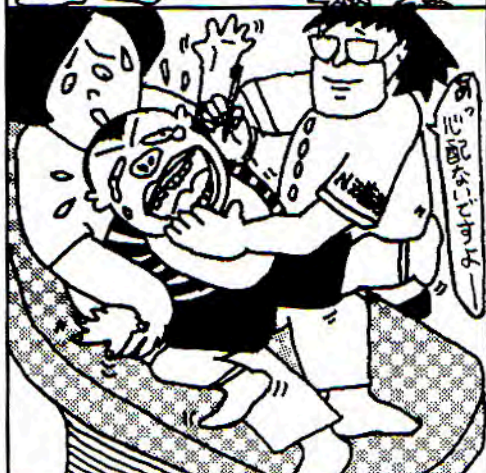
ことば

1歳7か月。2人の「コー」には、いっぱいの意味がある。抱っこ「コー」、しっこ「コー」、こおりの「コー」。そして幼稚園の先生のお子さんのきょうこちゃんのことは「コーコちゃん」。動物園に行ってもライオンも象もぜーんぶ「ワンワン」だ。でも最近マックはケンタのことを「ケンタ」と呼んでいる。



ケンタの前歯

保育園から帰ってきて、手を洗っていたら、いすを踏みはずして落下。洗面台に歯をぶつけて血が出る。その後普通にごはんを食べたのでホッと一息。し、しかし、歯磨きの時、右前歯が少し欠けていたのを発見。ガーン!(ショック)洗面所に小さな歯のかけらを見つける。歯医者ではすざまじい豚顔だけどかわいと思う母でした。

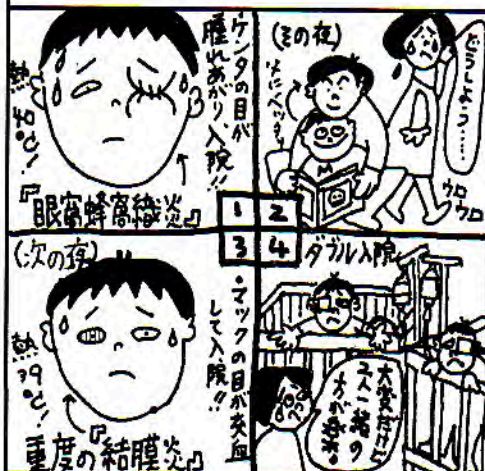


MACとKENTAの育児日記

第15回

2人で入院

ケンタの目がみるみる腫れあがって高熱が出てびっくり！ 結局ケンタ1人で入院することになり、心を鬼にして帰る。その晩はマックが1人っ子状態で父にベッタリ。しかしその夜マックの目にも異変が起こり入院。「2人の病気は関連ないので双子の非科学的な何かの因果かも？」と医師の説明あり。



本屋で赤面

散歩がてら本屋に寄る。すると大好きなテレビのキャラクターの絵本を見つけ、「ビーファイター」コールが始まった。2人の声はうまく調和し、店内に響き渡って注目をあび、母は赤面！ その本を買わざるをえない状況になった。それから2人の要望をうまくかわすようにし、1つ1つ強くなっていく母でした。



M & K アラカルト



●あらすじ

2人を連れて電車に乗ってみたが、帰りは抱っこをせがみ、親はクタクタ、なかなか普通のことがまだまだ自由にできない。絵本やオモチャは2人同じようにと気を配る日々。大変だけどかわいさ百倍の双子育児奮戦絵巻。

作:塩野悦子

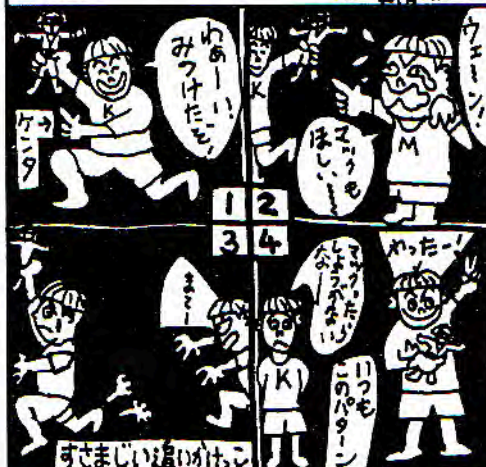
(宮城大学看護学部講師)

E-mail: siono@mail.sp.myu.ac.jp



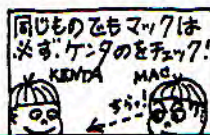
仕事で充電

私の仕事は新生児から6歳までの育児指導。いろんな子供たちやその母たちに出会って話をうかがい、かえってたくさんのエネルギーをいただいているようだ。ありがたい。だから保育園のお迎えの時はなぜか元気になれる。いや、結局自分の子供たちが一番！と思って保育園に走る単なる親バカなだけかも。



うばいあいのパターン

以前になくした人形をケンタが見つくて大喜び。それをマックを見つけ、追いかけてこがはまる。しばらくするとケンタがマックに譲って一件落着。新生児の頃からマックの泣きの方が激しいので、ついマックから先にミルクをあげていた。そのパターンが2人の関係にあらわれているのか、ケンタはいつも「やれやれ」という顔でマックを見守る。



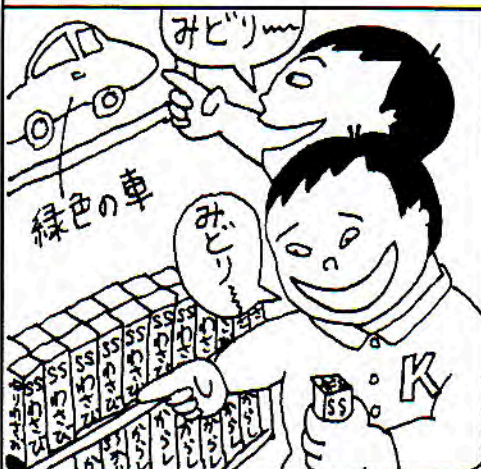
初滑り

2歳からスキー場の託児所にあずけられるようになり、一步自由の身を感じる。朝5時に、寝ている2人をチャイルドシートにそっと運び、いざ出発。雪景色を見て2人はルンルン。でもあずける時は案の定大泣き。ぐっところえて我々夫婦はスノーボードに興じる。午後は皆でそり滑り。海では泣くけど、雪は大丈夫そうなのでホッとする。



MACとKENTAの育児日記

第16回



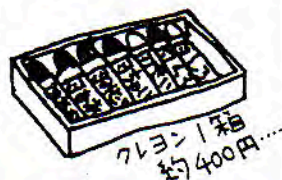
ケンタの緑好き

ケンタはとにかく緑が好きだ。洋服も緑系で、マックは青系になっている。クレヨンも緑がすぐに短くなる。道路でも緑の車を見つければ「みどりー！」と叫び、マックはその他の色を担当している。ある日スーパーに行った時、ねりワサビの緑の箱を握りしめて離さない。ここまでこだわるグリーン坊やには降参だ。



やめられない! 止まらない!

保育園から帰って夕食まで、以前はビデオを見せていたが、2歳過ぎたら、おえかき狂いになった。へたすると1時間ぐらいいは黙々と描いている。相手が描くので自分も競争して描くのかもしれない。次から次へと描くので、クロッキーブックとクレヨンの消費量は日本一と思うほど、思わぬ出費!



悪夢のお子様ランチ

そろそろ一人前になったような気がして、ファミリーレストランで2人それぞれにお子様ランチを注文した。ランチがくるまで、2人はいつものようにふざけまわり親はヒヤヒヤ。いざランチがきても、2人が食べたのはポテトだけ!こんなに高いのにどうして食べないの? せっかく楽しむために来たはずが、親は「ガーン!」である。



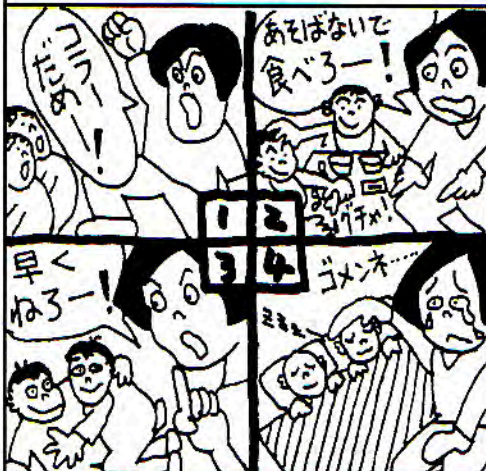
●あらすじ

ことばも少しずつ出てきて、2人の波長はいつもピッタリだが、ケンカもすごい。ほぼ同時期にちがう種類の目の病気にかかったり、双子ならではの不思議なことも体験。親はクタクタだが、かわいさ百倍の双子の妊娠・育児の奮戦絵巻。

作:塩野悦子

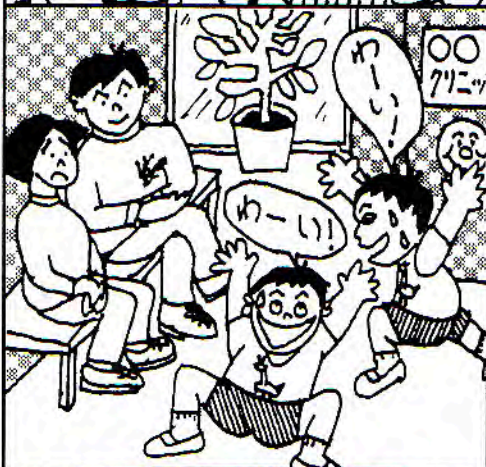
(宮城大学看護学部講師)

E-mail: siono@mail.sp.myu.ac.jp



いつも反省

気がつくと家の中で怒鳴ってばかりいることが多い。なぜ怒鳴るかという、自分の思い通りにならないからだ。夫や他の人がいればそんなにイラつくことはない。母のエゴって怖いと思うことがある。やっとの思いで2人を寝かせてから「ゴメンネ、明日はもっとやさしくするからね」と涙ぐむこともしばしば。寝てしまってからでは遅いの……。 



病院好き(?)

かかりつけの小児科は日曜も診察しており大助かり! 休みの日に家族4人で行くことが多いので、マックとケンタは大喜び。病院に行けば2人は廊下を汗びっしょりで走りまわり、テンションは絶好調。時々何をしにきたのかわからなくなる。1階には大型スーパーがあり、待ち時間に買物をしたりするので、病院に行くことを2人は勘違いしているかも(?)。 

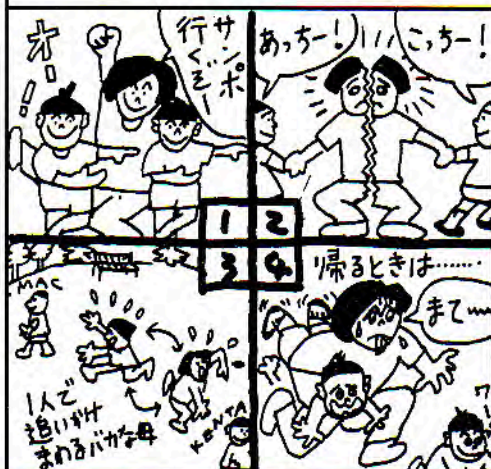


2人の世界

2歳を過ぎ、2人の世界はますます強固になった。ケンタがベストを脱げばマックにも脱げと言うし、マックが転ぶとケンタも同じ場所でわざと転んでいる。1人がオモチャの車を走らせれば、もう1人が受け取ってくれる喜びを知る。2人がポンキッキーの踊りをしているので、母も行ってみると、見事にふられたことがある。母はうれしいやら悲しいやら複雑だ。 

MACとKENTAの育児日記

第7回



いつも悲惨な散歩

散歩に行くのはいいけれど、2人は必ず180°に別れていく。からだか2つに分離できればいいのにといつも思う。1人が危険地帯へ向かえば母は救助に走る。しかしその隙にもう1人が別方向へ突っ走って、母ダッシュ! 帰る時は1人を脇に抱えて、もう1人をつかまえに行く。体力・気力を使い果たす毎日。



ス、スゴイ奴ら!

A: 母が夕飯の仕度中、白いテーブルが赤と茶色のクレヨンでうめ尽くされていた!
B: 帰ってきてからの手洗いまではいいが、ちょっと目を離すと水びたしの洗面所。
C: 我家の南角はガラス張りで2人のたまり場。2人が素っ裸で立っていたら、向こうの誰かと手を振っていた。
D: 2人のエキサイトを抑えるのがこれ。だましだましの育児です。



「みんなのうた」

どうしても子供番組を見ることが多くなるが、すべてが子供向けではないようだ。育児をしている母に今までの生き方を考えさせ、それとなくエールを送っている歌もある。思わずホロリとしてしまい、知らず知らずのうちに心が癒されることがある。フムフム、国営テレビもだてに受信料をとっていないかも!



2歳をすぎ、2人で遊べる喜びをますます満喫。しかし度が過ぎることもあり、母は怒鳴ってばかりいることも多くなる。親はクタクタだが、2人のたどたどしいやりとりを見ているのは楽しく幸せ。ふたごの育児奮戦絵巻。

父さんの腹筋をまねしています。

1, 2
1, 2

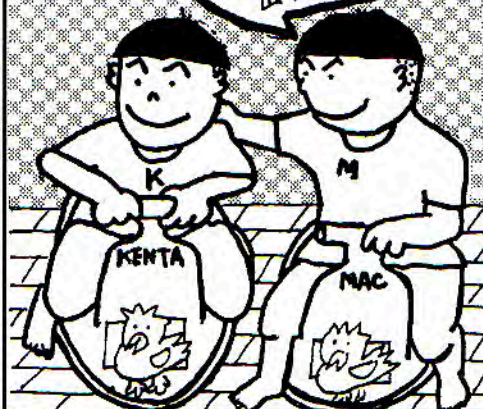


父さんへの信頼

2歳4ヶ月のある朝、マックが「おくついたい」を何やら連発。10回くらい聞きなおしてみると「ヤクルトのみたい」が判明した。その直後、何とお父さんが超特急で買ってきてくれた。母子共々その対応の早さにびっくり!! 2人は順にお父さん子になったり、お母さん子になったりしているが、父への信頼は厚い。

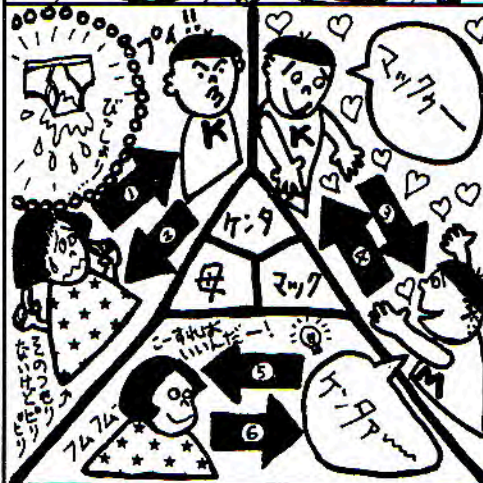
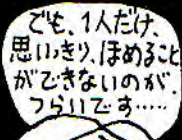


ケンタ
出たア?



マイ・オマル

トイレト云々……には全くのんびりしていたが、ケンカになるのを予測してオマルは一応2台準備した。少しずつ教えてくれていたが、本格的にやってみたのは2歳半の夏。マックは何と1週間でオムツがとれた! ケンタはその半年後のこと。その間、ケンタはマックにオシッコを教えたり、パンツをおもらしてもらうこともあった。



妙ちくりんな三角関係

①気をつけていてもついケンタのトイレの1人立ちには神経質な母。②そしてケンタの母への嫌気。③一方マックには甘えん坊になったケンタ。④マックはケンタの第2の母のよう! ケンタへの言葉がけが実にやさしく、⑤母はマックに教えられる。⑥それからの2人のやりとりを傍観していくうちにケンタのオムツがとれていった。



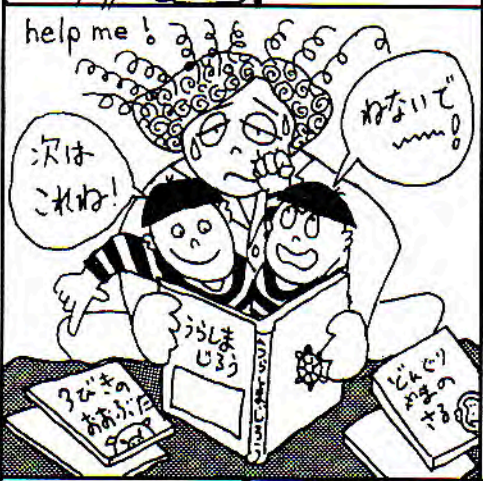
MACとKENTAの育児日記

第18回



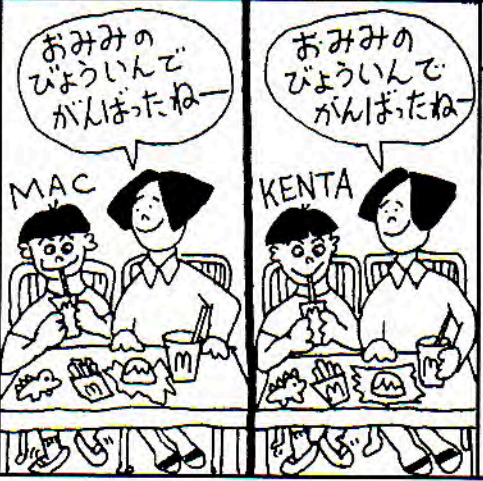
うんち陣痛

2才半を過ぎたある一時期、2人はおなかが痛くなると激しく泣き叫び、パニックになった。これが2人同時の時はすさまじい騒ぎ。とにかく私も闇雲にオマルにすわるよう押さえつけ、「さわがないでー! ヒッヒッーだよ」などと、お産の時の助産婦方式に切りかえる。母も何かが何だか、わかんない。



何でも競争! 狂騒!

『寝る前の絵本を読んであげる』という育児の花形的イベントをいざ実行。2人で競ってお気に入りの本をこれもこれもと3冊ずつ持ってくる。「これは明日ね」なんていうとダブルでぐずる。眠いのにな絵本を6冊も読まされると拷問の域に入る。双子だから同じようにしてあげれば、なんて思っているとこんなハメになることもある。



1人ずつとの時間

最初にマックが中耳炎になり、耳鼻科へ何回か通った。母と子1人で歩き、切符を買い、電車を待ったりしてみると、母と子2人であるより心が実に平静だ。1人の話を十分に聞いてあげている自分を感じる。1対1で向き合うことはやはり基本なのだろうか。でも、しばらくしてケンタも中耳炎になり、同じようにしてあげられ、ほっとした。



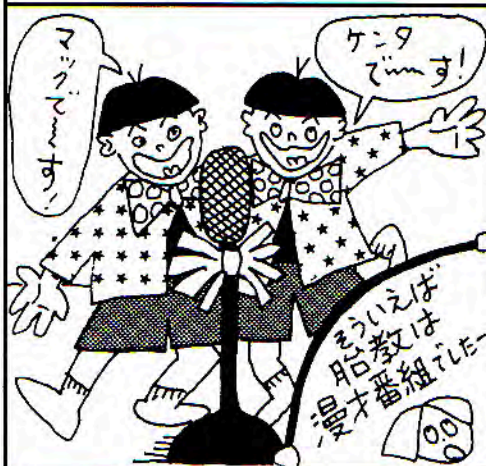
●あらすじ

散歩は必ず2方向に分かれるので、母親は汗かく。
2人で一緒にするイタズラはとどまる所を知らない。
2人の絆はますます深まり、ケンタがマックにおしっこを教えたりしている。ふたごの育児奮闘絵巻。

作:塩野悦子

(宮城大学看護学部講師)

E-mail: siono@mail.sp.myu.ac.jp



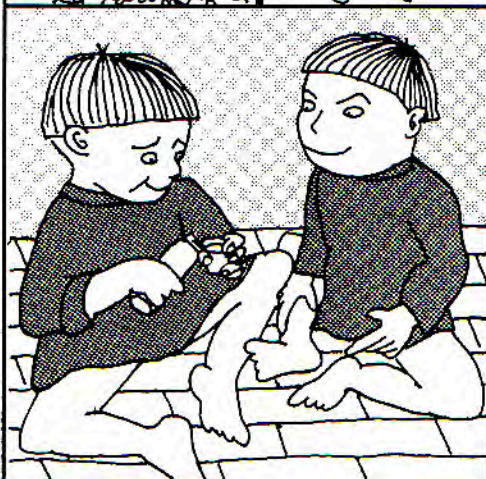
ギャグがいっぱい!

双子ではいわゆる「相方」がいるので、必ず同レベルの人間が受けてくれる。パンツを頭にかぶっても、ラーメンを冷やすのに「フーフー」じゃなく「ブーブー」というだけで笑いころげている。寝る時、まだ寝たくないの、「オシッコー」と2人が母をだまして笑っている。膝の傷が治ると、「カサブタ飛んでったー」とギャグ満載!



お月さま

まんまるの月夜に「お月さまの中には何があると思う?」と2人に聞いた。余裕なんて言葉は私の辞書にはなかったのだが、こんな会話もできるようになったんだなあ、そんな自分に感激する。一方、子どもたちは月の中にウサギがいると知らされ、ちょっとこわくなったのか、早々に家の中に引っ込んでいった、母はガクガク…!



1杯やっか?

薬ビンで2人でお酌をしていた。手つきはぎこちないが、「ハイどうぞ」といって2人でニターっとしてやりあっている。その動作がとてもオッサン的で、ふと大人になった奴らを想像してしまった。でかくなって、ヒゲをはやし、声が変わって…(ギョ!)。あーでも今のままでいい。オッサンになったらどうしよう!



MACとKENTAの育児日記

第19回
(最終回)



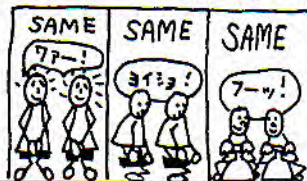
嫌な1枚の写真

動物園に行った時の写真を現像してみてびっくりした。楽しかったはずなのに私の顔はブンブン！ かき氷をぎこちなく食べている2人をハラハラして見ているのだろうが、怖い顔だ。育児をしている自分の表情って、子どもには大事だよね。この写真は、大反省の恥ずかし1枚。

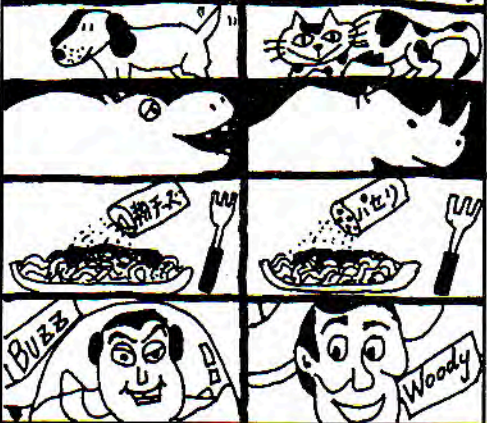


双子の魔力

赤ちゃんの頃から、同じ服を着せ、何でも同じようにするのが習慣だし、同じしぐさをされたり、2人仲良く並んでいるのを見たりすると、ますます双子であることがうれしくなる。ある日2人が同時にオマルに行き、同時にパンツを下げ、同時にオシッコをした時は見事で、ホレボレとしてしまった。



MACの好きなもの KENTAの好きなもの



2人の自己主張

3歳前後になると2人の自己主張がますますはっきりしてくる。これは成長過程の1つなのだろうが、双子にとっては共存のための自衛策だ。1人がカバなら1人はサイ。1人がスパゲッティに粉チーズをかければ、1人はパセリのふりかけ。同じようにしているのは親の方で、本当は僕たちは違う！という気持ちでいっぱいなんだろう。



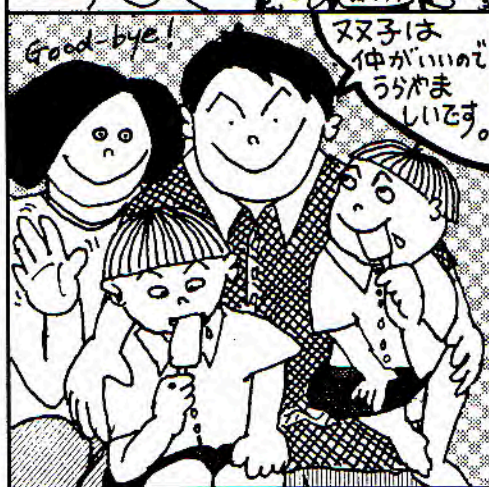
●あらすじ

妊娠から3歳頃までの双子育児の奮戦絵巻はこれでおしまいです。我が家に双子がやってきていろいろな出来事がありましたが、この育児日記を描くことができたのが私の最高の幸せです。本当に長い間ありがとうございました。

作:塩野悦子

(宮城大学看護学部講師)

E-mail: siono@mail.sp.myu.ac.jp



いたずらは続くよどこまでも

お昼ごはんの仕度をしていると、2人が妙に仲良く静かで無気味な気配。覗いてみると、枕の中味をバラバラにしてその中で泳いでいた！ 母が片づける端から2人は散らかし、興奮状態がおさまらない。おまけにお布団がぬれているのを発見して二重の怒り！ でも2人が焼きそばを食らいついてるのを見て、「まっいっかー！」



バイリンガルな母

保育園から帰ってくると、2人がいっぺんに母に何かを語り始める。1人の方に視線を合わせるともう1人が怒りだすので、いつのまにやら2人の話を同時に聞き出す技を身につけた。でも一人一人との語らいが少ないことに気づき、トイレで大の時は絵本をだしにコミュニケーション。



最後に「サンキュー！」

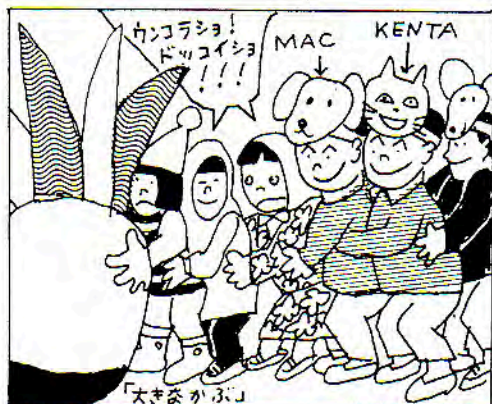
妊娠して双子とわかった時、面白そうな未来にウキウキした。決して思うようにならない泥縄の生活の連続だが、確かに面白くさせてもらっている。サンキュー、マック&ケンタ！自分が登場しているとうれしがる我が夫よ、サンキュー！そしてこの育児日記を読んで下さった皆様、本当にサンキュー&グッバイ！！



その後のMACとKENTA

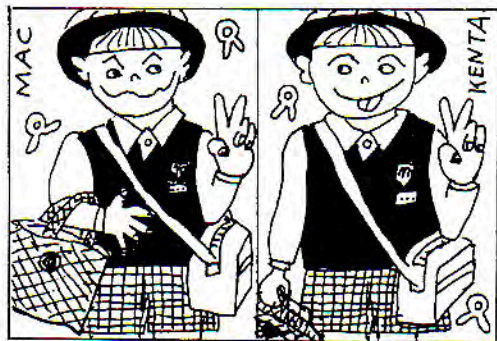
●1997, 仙台へ引っ越し

その後、塩野家は仙台へ引っ越した。2人は新しい保育園へ。2人の世界が強固で、新しいものに慣れるのに時間がかかる2人。他の子が臆せずやることも、2人は最初はびびる。つい比べてしまうけど、確実にたくましくなっている。夏には何とお泊まり会を無事に乗り切り、クリスマス会ではとっても緊張したけど、上手に劇をした。



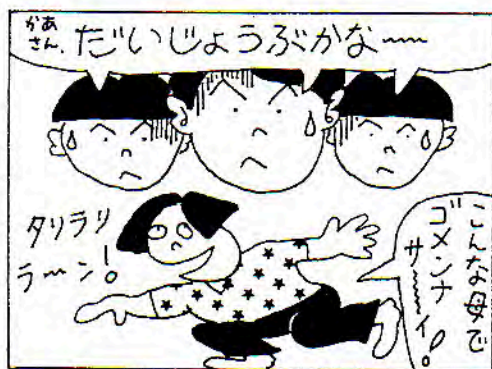
●1998, 幼稚園入園

保育園から幼稚園にも通うことになった。案の定、なかなか慣れない。「父さんも最初は泣いて門の所にいたけど、次の日から毎日楽しかったよ」と話をすると、2人の顔色はさっと変わった。父さんの威力は強い。非常に迷ったが、2人密着した関係を少しほぐすために、クラスは別にしてもらった。するとゲンキンなもので、それぞれのクラスの色を自分の色として自慢しあっている。また、双子の母は、それぞれのクラスの子どもたちやその母たちといっぺんに知り合いになれるのが特典だ。



●ダメ母

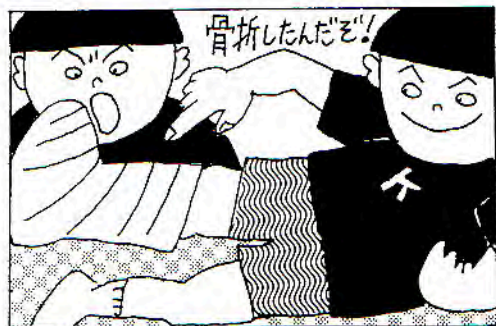
相変わらず母はおっちょこちょいだ。何回も2人の持ち物を逆に入れ、「今日も間違えていたよ」と言われる。また体操着で行かなければならないところ、制服を着せていたり、子どもたちの信用を失っているに違いない。それからプリント類は必ず夫に見てもらっている。



●1999, アクシデント

年長の5月に幼稚園で遊んでいて骨折をしたケンタ。2週間の要治療で父と母は交替して休んだ。ケンタはすっかり甘えることができ、どちらかという上機嫌。病院でレントゲン写真の自分の骨を見て興味をもち、マックとは違う体験を楽しんでいるようだった。その間マックはきちんと園に

通り、それもまた大きな自信になった様
子。



●2人の関係のその後

2人のけんかはエスカレートする一方。たたく、つねる、ひっかくは日常茶飯事で、顔の傷は絶えることがない。最初は止めていたが、基本的には好きなようにさせている。保育園でもやっており、先生も園児もただびっくりするばかりのときがあるらしい。それでもすぐに仲良くなるので、気に留めてもしようがない。

靴など、以前は同じ物が原則だったが、あえて違う物を選ぶようになってきている。どちらかというマックは、こうしたいという執着心が強く、ケンタは譲りがちだったが、だんだんこれも譲らないようになってきた。

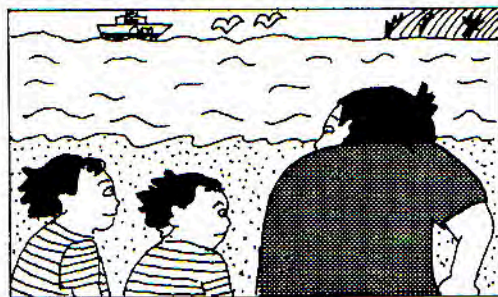
2人の会話力が増すにつれ、それを聞くのがとても楽しみだ。でも本当の2人の世



界を尊重し、あまり耳を傾けないよう努力しなければならなくなるだろう。

●夫のうれしいこと

赤ん坊の頃から2人はどういうわけか海を怖がっていたが、やっと5歳の夏に海で泳ぐようになり、夫はこれが何よりもうれしいようだ。着ぐるみも怖がっていたが、「中に人が入っているんでしょ」と訳がわかってからは納得してきた。



●2000、小学校入学

マックとケンタがピッカピカの1年生になり、塩野家が初めての我が家を持つことになり、画期的な2000年を迎えた。児童センターから2人だけで帰ってくるのができたり、自転車練習をしたり、コンピューターをしたり、ご飯を食べればコテンと寝てしまったり、毎日イキのいい2人である。これからは何が待っているかわからないけれど、塩野家のチーム力をフル回転していこうと思う。

